

(7) 北 陸



北陸地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は増加している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

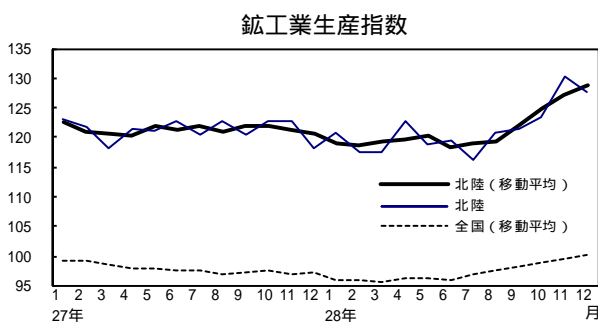
前回調査からの主要変更点

	前回(平成28年11月)	今回(平成29年2月)	
景況判断	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	緩やかな回復基調	
鉱工業生産	おおむね横ばい	増加	
住宅建設	大幅に増加	増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加している。

10～12月期には、電子部品・デバイスは、スマートフォン用電子部品などが増加した。化学は、医薬品を中心に高水準でおおむね横ばい。はん用・生産用・業務用機械は、生活関連産業用機械及び産業用ロボットなどが増加した。繊維は、化学繊維などが減少した。金属製品は、軽金属板製品等が増加したものの、おおむね横ばいとなった。



(備考) 1. 22年=100、季節調整値、最新月は速報値。
2. 全国及び北陸の太線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。

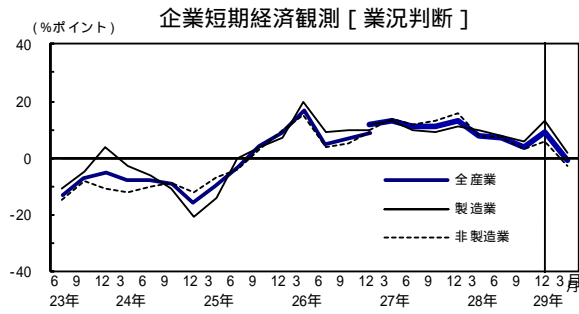
域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7～9 月期	10～12 月期	10月	11月	12月
電子部品・デバイス	20.8	3.6	18.7	4.2	12.0	3.4
化学	13.5	0.1	0.5	0.4	0.7	10.4
はん用・生産用・業務用機械	12.7	7.4	11.0	13.6	1.1	0.7
繊維	8.4	2.0	1.2	3.0	3.2	0.4
金属製品	6.0	0.3	0.2	2.1	5.1	3.9
鉱工業	100.0	0.7	6.4	1.8	5.4	1.9

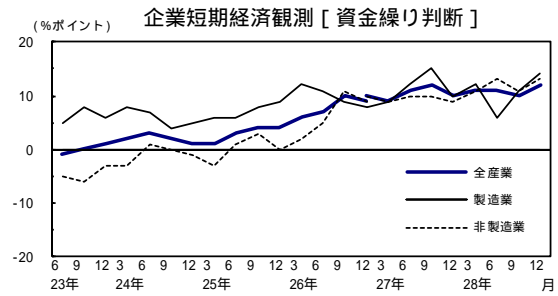
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 10～12月期、12月は速報値。

(7) 北陸

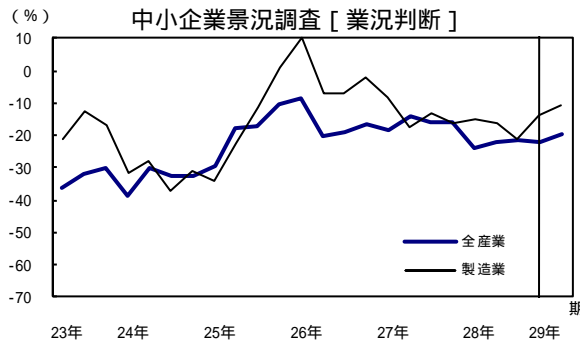
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。29年3月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

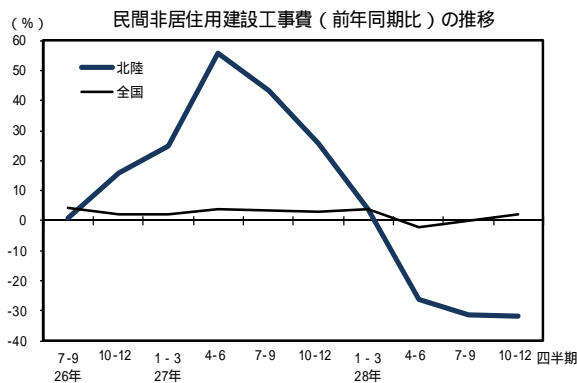


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。29年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「海外向けを中心に3か月前と比べて受注が増えている。しかし、材料と人材不足が足を引っ張っており、今後の課題となっている(一般機械器具製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に減少している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	27年度実績	28年度計画
全産業	18.0	10.9 (3.0)
製造業	43.6	11.7 (6.2)
非製造業	7.1	45.4 (0.1)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

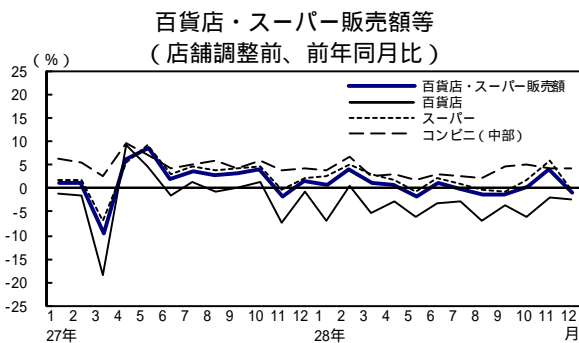
10月は前月比0.0%減、11月は同0.8%減、12月は同0.2%減となった。

百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10月は、月前半の気温が高かったことから衣料品を中心に秋物商材が振るわず、前年のプレミアム付商品券の反動減などもみられたが、野菜などの相場高もあってスーパーの飲食料品は堅調に推移したことから前年を上回った。11月は、株の相場高や店舗改装効果もあって飲食料品が好調に推移したことに加え、気温の低下に伴い衣料品を中心に冬物商材に動きがみられたことなどから前年を上回った。12月は、百貨店ではクリスマスやお歳暮商戦に動きがみられ、スーパーでは相場高もあって飲食料品が底堅く推移したものの、全体としては気温影響などから衣料品を中心に冬物商材が苦戦し、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「当店は年配の客が多い。変遷はあったが、開店以来初めて1月の売上が最悪となった。前年同月の80%の売上、他店同業者も状況は悪いと聞いている。客の中小企業経営者は、米国の新大統領就任による影響でより悪くなるという予想を語っていた(スナック)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。



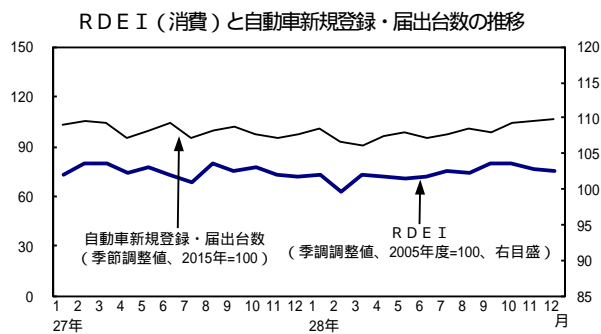
	28年10-12月	28年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.1	0.0	0.8	0.2
百貨店・スーパー(*2)	1.1	0.2	4.1	0.7
百貨店(*2)	3.3	5.9	2.0	2.5
スーパー(*2)	2.4	1.9	5.9	0.1
コンビニ(*2)	4.5	5.0	4.4	4.2
乗用車(*3)	9.3	6.2	12.4	9.3
(季節調整値)(*3)	6.4	6.5	0.3	1.3

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、経済産業省の中部(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値。

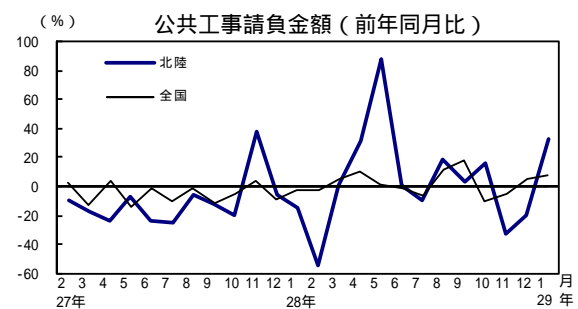
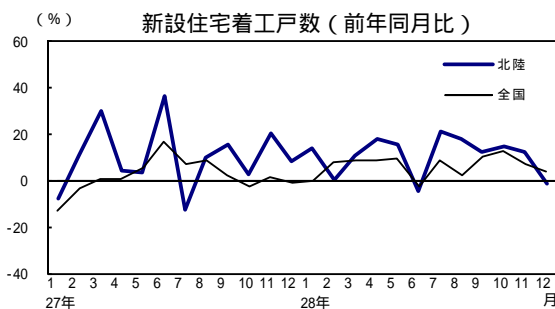
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は増加している。

持家、貸家が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は28年度累計で見ると前年度を上回っている。



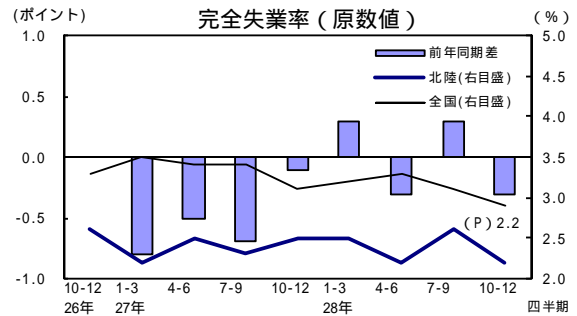
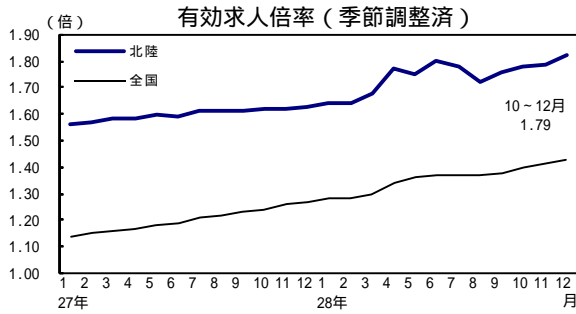
(7) 北陸

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



(備考) 1. 北陸は内閣府にて算出。
2. 10 - 12 月期の値は暫定値。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [雇用関連 (現状)]

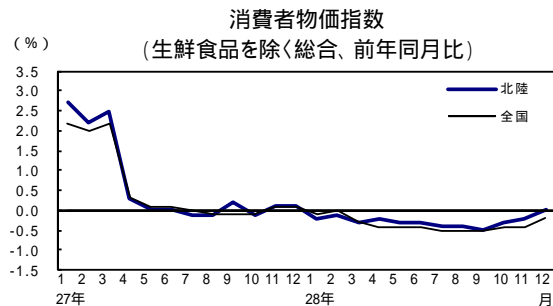
「平成 30 年度 3 月卒業者の求人票の出方が順調である。昨年よりも早く、多く出てきている。また、学内実施の合同企業説明会への参加希望企業数が、昨年と比べて多くなっている (学校 [大学])」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	28年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	29年1月
倒産件数	57	63	46	42	14
(前年比)	14.0	6.8	24.3	22.2	26.3
負債総額	232	35	71	51	54
(前年比)	133.5	95.6	23.0	46.0	42.7



(備考) 北陸は内閣府にて算出。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・衣料の購買力に勢いが欠けている。また、流通の段階においての在庫も増えつつある (繊維工業)

<先行き>

・北陸新幹線開業効果が薄れて、平日の集客が悪くなっている。しかし、一昨年と比べると来客数、売上共に上回っている (観光型旅館)

景気ウォッチャー調査 (季節調整値)

